

編集後記

二〇一一年度は東日本大震災の余波を受け、豊橋キャンパスでは四月に平常通り新学期が始まったものの、政治や経済の情勢が一層厳しさを増す中で、長閑な地方都市に居ても、いつになく慌ただしく過ぎた一年であった。本年度の文学論叢には、震災に関連する考察など、多様な領域から論稿が寄せられ、第一四五輯の編集を終えようとしている。

年度末の三月には愛知大学の名古屋新キャンパスの大学移転によって豊橋キャンパスから経済学部と国際コミュニケーション学部が笹島へ移転する。これに伴い、これまで文學會の運営に携わってきた人文社会学部はリニューアルされて新しい専攻も増え、今後も文學會の全学的な連携の流れが継続されることに変わりはない。二月に入り、今年は例年に無い寒波に見舞われているが、一方で時折、春の萌しも感じられるようになって来た。二〇一二年には、豊橋・名古屋の両キャンパスで人文研究が各様に大輪の花を咲かせるように心から祈りたい。

(Y・K)

平成三十四年二月 二十日 印刷
平成三十四年二月二十九日 発行

編者 愛知大学文学會

代表者 伊東利勝

印刷所 豊橋市高山町
株式会社 豊橋印刷社

発行所 豊橋市町畑町
愛知大学文学會

振込〇八九店↓当座〇〇四五六五四